

特集 SDGs×新型コロナウイルス感染症

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



「SDGs」とは

SDGs(エスディージーズ)とは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す」という国際社会共通の目標です。

SDGsが貧困や飢餓といった問題から、働きがいや経済成長、気候変動に至るまで、21世紀の世界が抱える課題を包括的に挙げているのが上の「17の目標」であり、それをより具体的にした「169のターゲット」から構成されています。

「国連森林戦略計画 2017-2030」とは

アメリカ広葉樹をはじめ林業や木材業界に特に関連の深い森林については、SDGsの目標「15 陸の豊かさも守ろう」の中に「持続可能な森林の経営」と掲げられていますが、それだけでなく森林はSDGsの様々な課題に関連しています。SDGsの目標に基づいて森林の役割を整理していくと森林の社会的課題が、具体的な目標として明らかとなります。このような観点から

2017年に国連で「国連森林戦略計画 2017-2030 UNSPF United Nations Strategic Plan for Forests 2017-2030」が合意されました。「世界森林目標」として掲げられている6つの目標は次の通りです。

世界森林目標 1

保護、再生、植林、再造林を含め、持続可能な森林経営を、世界の森林減少を反転させるとともに、森林劣化を防止し、気候変動に対処する世界の取組に貢献するための努力を強化する。

世界森林目標 2

森林に依存する人々の生計向上を含め、森林を基盤とする経済的、社会的、環境的な便益を強化する。

世界森林目標 3

世界全体の保護された森林面積やその他の持続可能な森林経営がなされた森林の面積、持続的な経営がなされた森林から得られた林産物の比率を顕著に増加させる。

世界森林目標 4

持続可能な森林経営の実施のため、大

幅に増加された、新規や追加的な資金をあらゆる財源から動員するとともに、科学技術分野の協力やパートナーシップを強化する。

世界森林目標 5

UNFI (United Nations Forests Instrument 国連森林措置)等を通じて、持続可能な森林経営を実施するためのガバナンスの枠組を促進するとともに、森林の2030アジェンダへの貢献を強化する。

世界森林目標 6

国連システム内や CPF (Collaborative Partnership on Forests 森林に関する協調パートナーシップ) 加盟組織間、セクター間、関連のステークホルター間等、あらゆるレベルにおいて、森林の課題に関し、協力、連携、一貫性及び相乗効果を強化する。

アメリカ広葉樹とSDGs

「国連森林計画」の最大の目標と言える「世界森林目標1」では、

- 1.1 全世界で森林面積を3%増加させる。
- 1.2 世界の森林の炭素蓄積を維持または増加させる。

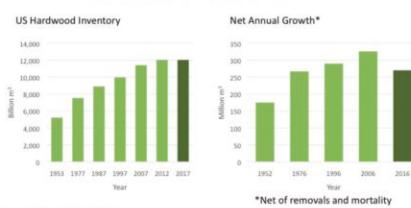
1.3 2020年までに、あらゆるタイプの森林の持続可能な経営の実施を促進し、森林減少を阻止し、劣化した森林を回復し、世界全体で新規植林及び再造林を大幅に増加させる。

1.4 あらゆる森林の自然災害や気候変動の影響に対する強靭性や適応能力を世界全体で顕著に強化させる。と具体的な数値を含めたターゲットが規定されています。いずれもアメリカ広葉樹輸出協会(AHEC)が取り組んできた内容と合致するものです。

アメリカ広葉樹輸出協会では2008年に米国広葉樹材の合法性、持続可能性を調べようとフルリスク評価を行い、「合法性において米国は広葉樹材の生産地としてリスクが低い」との評価を得ました。そして2008年の調査・研究から10年後の2017年に米国広葉樹の合法性・持続可能性についての再検証を実施しました。その結果、「米国産広葉樹の違法性、持続不可能であるというリスクは低い、もしくはほぼ皆無である」との結論を得ました。つまりアメリカ広葉樹材は、SDGsが目標として掲げている持続可能な森林であることが改めて証明されたわけです。

米国の広葉樹材の特徴的なポイントとしては、各州において森林の成長量が伐採量よりも大幅に多いということです。次図は米国広葉樹の資源状況を示したものです。左側は1950年代以降の米国広葉樹の蓄積量を示しています。コンスタントに増加していることが分かりますが、これは米国においては伐採や自然倒木よりも年間の成長量の方がはるかに上回っているからです。

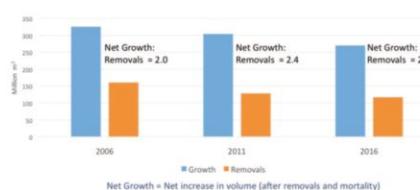
米国広葉樹の資源状況



Source: US Forest Service, RPA Data

下図は年間の純成長量と伐採量を比較したもので、右側の年間の純成長量が少し鈍化しているのは自然倒木の増加によるもので、自然倒木を差し引いたものが年間の純成長量です。成長量は伐採量を大幅に上回っており、その比率はほぼ2対1となっています。

年間純成長量と伐採量



『世界の森林の炭素蓄積を維持または増加させる』ことはアメリカ広葉樹環境プロファイル(AHEP)の中でライフサイクルア



米国インディアナ州の広葉樹林

セメントの中にも記載していますが、国連の分析によれば世界の森林や木々が蓄積する二酸化炭素(CO₂)の蓄積量は1990年以降約170億トンに低下しています。一方、米国では23億3000万トンに増加しており、その大部分は50年間に森林蓄積量が2倍になったアメリカ広葉樹林によるものです。

そして、「世界森林目標3」の持続的な経営がなされた森林から得られた林産物の比率を顕著に増加させることは、アメリカ広葉樹材のプロモーションを担うAHECの活動そのものです。

SDGsのキーワードは「誰ひとり取り残さない」であり、国際機関、政府、企業、学術機関、市民社会、子供も含めた全ての人が、それぞれの立場からSDGsの目標達成のために行動することが求められています。

アメリカ広葉樹輸出協会では、アメリカ広葉樹の輸出に携わる人々を始め、輸入して海外市場で展開される方々にも活用いただける情報をまとめました。それがアメリカ広葉樹環境プロファイル(AHEP)です。AHEPは該当樹種ごとに作成され、米国から世界中のあらゆる港に出荷される積荷ごと、船便ごとに船積書類と一緒に送付されます。EUTRや日本のクリーンウッド法にも対応していますので日本国内で製造された家具をヨーロッパに輸出される場合や日本国内で公共建築にお使いいただく場合にも安心してお使いいただけます。

世界が脱炭素で持続可能な社会へ大きく変わる中で、木材は資源として新たな価値を持ったと言えます。それはアメリカ広葉樹にとっても需要拡大のチャンスです。ぜひAHEPを有効にご活用ください。

各社のSDGsへの取組み(1)

新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延は、多くの人々が新型コロナウイルスだけでなく、貧困や飢餓、気候変動や生物多様性の喪失など人類が直面する長期的脅威やリスクを改めて認識し、持続可能でよりよい世界を目指すというSDGsを身边に感じるようになりました。

林業や木材、そしてアメリカ広葉樹に関する業界はいま何とどう取り組んで行くべきなのでしょうか。今回はすでにSDGsに取り組まれている2社の活動をご報告します。

カリモクグループのSDGs

日本有数の家具メーカーであるカリモクグループ(本社所在地:愛知県知多郡東浦町)では、グループミッションとして「木とつくるしあわせな暮らし」を掲げています。根底にあるのは、木のことを知り、使うプロフェッショナルとして、木と人を結び、人々のくらしを向上させたいという思いです。そのためにはSDGsへの取組みが不可欠といち早く取組みを推進されています。

森林をはじめとする環境に支えられ、人々

に製品・サービスを提供する企業として、環境・社会への配慮を行った事業活動の推進、およびそのための企業統治体制の整備に取り組んでおられます。

なかでも、家具生産のための材料というべき木材については、森林の持続性が証明されたアメリカ広葉樹材や各種認証材のみを利用されています。さらに生産プロセスの改善による歩留まりの向上をはじめ、未利用材の有効活用やリサイクル材の活用など、森林資源の有効活用に努めておられます。

また自社で発生する木くずを利用したバイオマスボイラーの利用によるエネルギー利用率の向上や太陽光発電による省エネの推進などをはじめ気候変動への対応策として、製造・販売・流通の各段階でCO₂排出量の削減にも積極的です。

紹介するのはアメリカ広葉樹環境プロファイル(AHEC)により合法性と持続可能性が証明されたウォルナット材の製品です。



チェア、CU71 モデル。合わせるベンチ(CU72 モデル)の背板は、ウォルナット材を惜しげもなく使用しています



チェア、CU61 モデル。テーブルは、40ミリの厚みが人気のプレッドシックスステーブル

朝日ウッドテックグループのSDGs

もう一社は、木の質感を徹底的に生かした無垢材挽き板フローリングでグッドデザイン賞を受賞されている朝日ウッドテックグループ(本社所在地:大阪市中央区南本町)のSDGsへの取組みを紹介します。

「木を知り木を活かす技術と社会との共創を通して新しい価値を創造し、心豊かで環境にやさしい未来を実現する」SDGsの目指すところと重なる部分の多い経営理念を掲げる同グループではSDGsへの取組み強化を経営方針に取り入れ、2020年4月にSDGs推進室を新設されました。さらに2021年4月には社内外にSDGsを発信するにあたり、何をすることがSDGsにつながるのか、また進捗の評価方法の明確化のためにSDGs推進プロジェクトを発足されています。

主力製品である複合フローリングにおいては表面化粧の天然木だけでなく、基材部分も持続可能な木材利用に努めておられ、独自にエコ基材と位置づけた基材の調達量は全体の8割程度に増えています。

2020年7月には天然木複合フローリングでは日本初の「SIAA 抗ウイルスマーク」を取得。コロナ禍でも安心・安全で快適な生活を過ごせるように製品に衛生性能を付与されました。

また製造時の木くずを用いたバイオマス

ボイラーにより生産設備の稼働など環境への配慮も徹底されており、バイオマス発電や太陽光発電の導入も検討中です。

脱炭素社会への対応としては温室効果ガスの排出量を2013年を基準に、2030年に半減、2050年には0を目指しておられます。ち

なみに2020年の実績ではグループ全体で30%の削減を達成されています。

紹介するのは合法性と持続可能性が証明されたアメリカ広葉樹の美しい杢目の銘木を用いた無垢材挽き板フローリングです。左がチェリー、右はオーク材です。



時間が経つほどに深みを増す艶色の艶が特徴のチェリー。床暖房対応



天然木の個性がオークの存在感をダイレクトに伝える。床暖房対応

大阪、東京、福岡でアメリカ広葉樹懇談会を開催

「新型コロナウイルス感染禍での広葉樹市場とアフターコロナの動向」

アメリカ広葉樹輸出協会(AHEC)は、新型コロナウイルス感染症(COV-19)が世界各国で大きな人的被害や経済的損失をもたらしている中、アメリカ広葉樹の国際的需給の状況や日本市場の現状、またポストコロナの見通しや業界の取組みについての懇談会を2020年9月8日の大阪を皮切りに11月16日に東京、12月10日に福岡県大川市で開催しました。



三密を避け、マスクスタイルで開催された懇談会風景。左は大阪会場、右は東京会場

OSAKA

2020年9月8日、大阪市内で木材輸入会社の(株)新宮商行、昭和木材(株)、(株)山王、突板メーカーの(株)カネキそして高級内装材メーカーの(株)ウッドワークスと弊協会メンバーのNorthwest Hardwoods Japanの各担当者6名のご参加により懇談会を開催いたしました。

木材輸入会社3社からは2020年上半年は2019年とほぼ同量のアメリカ広葉樹製材を輸入したが、2020年下半年も米国側の出荷が可能であれば前年同量の輸入を予定。樹種的にはホワイトオークとウォルナットが主流であるが、ホワイトオーク製材の米国側からの供給に少々不安を持っていることが指摘された。

突板メーカーからは突板の最大需要先である高級ホテル等のオリンピック関連の建設が一巡したところへコロナ禍によるホテルの稼働率の低下でホテルの新設計画が完全に停滞。2020年後半は大幅な需要の減少が予想されていた。さらに突板と比べ価格が1/3~1/5である木目を印刷したシートを用いたフロアーが市場を席捲しており積層フロアーの表面材としての突板の需要は激減する可能性がある。シートを用いたフロアーはいまや住宅にとどまらず高級ホテルの内装にも及んでおり突板を使用した積層フロアーは厳しい状況にある。

家具に関してはオンライン販売と安価な商品を扱うところは大きな影響を受けていないが、ショールームでの販売が主体のところは外出自粛の影響が大きく二局分化の傾向が強くなっている。

高級内装メーカーによれば高級な無垢の内装材の需要は底堅く、現時点では新型コロナウイルス感染による影響はほとんど受けていないとのことであった。

TOKYO

2020年11月16日、東京都内で木材輸入会社の(株)新宮商行、(株)物林、突板メーカーの北三(株)、木質建材輸入会社の(株)ハウディー、(一社)全国木材組合連合会(全木連)と全国天然化粧合板工業協同組合連合会(全天連)の各代表者計6名のご参加により懇談会を開催いたしました。

2社の木材輸入会社からは2020年上半年についてはアメリカ広葉樹製材を2019年とほぼ同量輸入をした。そして、2020年下半年においても米国側の出荷が可能であれば前年並みの輸入計画中のことであった。一方、米国の広葉樹業界に投資会社が参入したことで広葉樹製材会社の経営形態が変化している。日本側としては日本側の意向を汲み取り長期的なビジョンで取引きの出来る独自資本の製材会社の存続を願っているとの意見も頂いた。

全天連からは2019年は米国中西部での天候不順と米中貿易摩擦の影響で立木伐採が進まず原木の仕入れが難しかった。2020年は米国での新型コロナウイルス感染の拡大で原木の仕入れは先が見通せない状況が続いているとのことであった。

突板メーカーからは空のコンテナ不足により突板用の原木の日本への輸送に時間が掛かっているとの指摘があった。

木質建材輸入会社からは2020年4月以降ハウスメーカーの受注が回復してきており着工数の大きな落ち込みは回避しそうだが、住宅の坪単価が低価格化してきており、アメリカ広葉樹の無垢内装材の使用が難しくなるのではと心配している。また大型ホテルにおいても建設予算の削減で内装を無垢材からシート製品等にコストダウンする傾向が増えている。

ホワイトオークの原木と製材の供給減に対してはほとんどの参加者が懸念を示されていた。

FUKUOKA

2020年12月10日、福岡県大川市で木材問屋の(株)井上企画、(株)佐藤木材、(名)早田木材、家具メーカーの(株)丸庄、レグナティック(株)、(有)平田椅子製作所、そして弊協会メンバーのNorthwest Hardwoods Japanの各代表者計7名のご参加により懇談会を開催いたしました。

木材問屋の2社からは前年とほぼ同量のアメリカ広葉樹製材を仕入れており、2020年の上半年では特に大きな変化はなかったが、9月以降アメリカ広葉樹製材が買い難くなっている。AHECメンバーの日本事務所からも2020年上半年は例年通りの出荷が出来たが、下半期になって新型コロナウイルスの影響で出荷が減少しているとのこと。

福岡県大川地域は日本最大の家具産地であり、参加の家具メーカー3社からは2020年3~5月の新型コロナウイルス禍による最悪な状況は、7月~10月に少し回復したが、11月に入り再度受注が落ちてきている。家具の輸出に関しては、最大の輸出先である中国市場の回復により6月以降順調となっており、問題は輸出用の空コンテナの手配に時間が掛かることである。

一方、新型コロナウイルスの顕著な影響としては外出自粛等により低迷する家具の店舗販売に対し、オンライン販売の好調である。また、巣ごもり需要の拡大によりテレワーク向けの家具が好調である。

家具の多くをウォルナットで生産している家具メーカーに対応してウォルナットの供給を拡大してきたNorthwest Hardwood Japanからの今後はより安定供給可能なレッドオークを推奨したいとの提案に対し、家具メーカーから日本では伝統的にホワイトオークが好まれており、レッドオークは「オーク」のみの表示にしてはどうかとの意見があった。